

9. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携事業：看護・社会福祉連携事業

1) 看護・社会福祉連携事業について

高知医療センターと高知県立大学は、医療・健康・福祉・栄養分野における交流連携を推進し、双方の実践、教育、研究の質向上を図るとともに、地域・社会への貢献を促進するため、平成 22 年 11 月に両組織間の包括的連携協定を締結した。これは、高知医療センター看護局と本学看護学部が、よりよい看護の実現を目指して平成 18 年から取り組んできた看護連携型ユニフィケーション事業を発展させたものである。現在はこの協定に基づき、全体を統括する包括的連携協議会の下に、健康長寿・地域医療連携部会、看護・社会福祉連携部会、健康栄養連携部会、災害対策連携部会の 4 部会を設置し、さまざまな連携事業を展開している。

このうち看護・社会福祉連携部会では、看護および社会福祉に関する連携事業として、①学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供、②基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力、③教員によるコンサルテーションの実施、④臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究、⑤県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催、⑥その他看護・社会福祉連携活動の実施、を行っている。

(1) 看護・社会福祉連携部会の委員および活動状況

令和 2 年度は部会委員を、高知医療センター 19 名（看護局 7 名、地域連携室 12 名）、高知県立大学 9 名（看護学部 7 名、社会福祉学部 2 名）、計 28 名で構成し、活動を推進した。今年度は本学看護学部が部会長および事務局を務めた。

看護・社会福祉連携部会では、COVID-19 の影響もあったが、下記のとおり 2 回の部会会議とメールによる情報交換や相談を行いながら、事業を進めた。

- ・第 1 回看護・社会福祉連携部会：6 月開催（Zoom を用いての Web 会議）
今年度の部会の運営および活動方針の検討、事業計画の確認等
- ・メールでの中間評価：10 月（メールによる確認・共有）
事業実績および今後の事業計画の確認、COVID-19 による影響の把握
- ・第 2 回看護・社会福祉連携部会：3 月開催（Zoom を用いての Web 会議）
事業実績および活動評価の確認、次年度に向けた課題、次年度の活動計画の検討等

(2) 看護部会における事業実績

今年度は COVID-19 の影響により、事業の開催を見合わせる、時期や実施方法を変更するなどの対応を行いながら、各事業を展開した。最終的な事業実績は表 1 のとおりである。

表 1. 令和 2 年度看護部会における包括的連携事業実績

<p>1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供</p> <p>1) 学部生および大学院生の臨地実習</p> <p>学部生：看護基盤実習、急性期看護実習、慢性期看護実習、母性看護実習、小児看護実習、助産看護実習 I のべ 205 名</p> <p>* COVID-19 に伴う変更：ふれあい看護実習は、病院での各部門の講義と見学実習を中止し、Web 会議ツールを用いての遠隔講義と講義動画作成に変更した</p> <p>* COVID-19 に伴う中止：助産看護実習 II、総合看護実習（小児・急性期・慢性期・助産看護領域）、看護管理実習（小児・急性期・慢性期・助産看護領域）</p>

総合看護実習と看護管理実習では、臨地実習中止を補うため、臨床現場の実際に関する特別講義を実施

大学院生：がん看護学実践演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ・Ⅴ、小児看護学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、★慢性看護学実践演習Ⅳ のべ15名

*COVID-19に伴う中止：クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ、小児看護学実践演習Ⅴ、家族看護学実践演習Ⅰ・Ⅱ

2)大学院生および教員の臨床研修

大学院生：緩和ケアカンファレンス・キャンサーボードへの参加（がん看護学領域、4回・のべ7名）、小児科医開催のカンファレンスへの参加（小児看護学領域、2回・のべ3名）

*COVID-19に伴う参加中止：急性期領域のセミナー等への参加（クリティカルケア看護学領域）

教員：小児科医開催のカンファレンスへの参加（小児看護学領域、2回・のべ2名）

*COVID-19に伴う参加中止：緩和ケアカンファレンス・キャンサーボードへの参加（がん看護学領域）、急性期領域のセミナーへの参加（急性期看護学領域）

2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1)医療センターによる教育・研究支援

(1)教育支援

学部生：ナーシングカフェへの参加（2回・のべ3名）、インターンシップ（3回生45名）、実践的知識獲得へのサポート：「医療安全について」（2回生80名）・「感染管理について」（3回生82名）・「医学的知識を活用した看護実践」（3回生82名）、急性期看護論ゲストスピーカー「クリティカルケアの場における死と看取り」（2回生83名）、終末期看護援助論ゲストスピーカー「終末期にある患者と家族のケアの実際」（3回生82名）、助産看護領域特任助教の派遣1名（4月、6～9月）

*COVID-19に伴う開催中止：ドクターヘリ見学および「ドクターヘリの運用とフライトナースの役割について」、小児看護の魅力語る会

*COVID-19に伴う追加：総合看護実習（急性期看護領域）における特別講義、看護管理実習における特別講義2件

大学院生：クリティカルケア看護学方法論Ⅱ特別講義「クリティカルケアにおける倫理的課題－臓器移植に焦点を当てて」（博士前期課程クリティカルケア看護学領域1名）

(2)研究支援

学部生：看護研究における研究対象者の紹介依頼を予定していたが、今年度はCOVID-19感染拡大防止のため多くの研究が文献研究になったことにより、依頼はなかった

大学院生：修士論文における研究対象者の紹介（4題）

教員：教員の研究における研究対象者の紹介（3題）

2)大学による教育・研究支援

(1)継続教育支援 ※参加者数は医療センターのみ

研修「ストレスマネジメント」「グループマネジメント」「高齢者ケア1」「高齢者ケア2」への講師派遣（のべ88名）、実地指導者リーダーフォローアップ研修への教員の参加（2回・のべ24名）、マネジメントリフレクション（看護管理学領域、1回・21名）、シミュレーション教育学習会（2回・のべ11名）、シミュレーションを活用したリーダー研修；7Bフロア（クリティカルケア看護学領域、1回・8名）、★部署内の既卒新人および部署間異動者に対する実践における教育的なかかわり方に関する研修；3Aフロア（クリティカルケア看護学領域、1回・5名）

<p>* COVID-19に伴う中止：教員による若手看護師のキャリア・サポート「専門職としてのキャリア・デザイン」、シミュレーション研修「けいれんの初期対応」のトレーニングならびに勉強会；4Aフロア、化学療法を受ける子どもへの看護に関する勉強会；4Aフロア、シミュレーションを活用した病棟の学習会；5Bフロア、事例検討；2Cフロア</p> <p>* その他の理由による未開催：高齢者へのせん妄予防介入 認知症・精神疾患がある高齢者ケア検討会；6階 HCU、ビーズ・オブ・カレッジ研修会</p> <p>(2)研究支援</p> <p>看護研究4「看護研究を系統的に学ぶ」(3名)</p> <p>* 未開催：★「産後2週間健診結果に基づく産後ケアの見直し(仮)」</p>
<p>3. 教員によるコンサルテーションの実施</p> <p>QCサークル活動のコンサルテーション(看護管理学領域、Zoomでの開催16名、12回のメールでのコンサルテーション)</p> <p>* COVID-19に伴う中止：シミュレーションを活用した病棟の学習会の内容を今後の実践・災害看護につなげる方法の検討；4Bフロア</p>
<p>4. 臨床実践能力(知識・技術・態度)及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究</p> <p>共同研究(3件、うち1件は新規)</p>
<p>5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催</p> <p>1)市民を対象とする共同事業</p> <p>* COVID-19に伴う中止：「赤ちゃん同窓会」企画・運営への学生・教員の参加</p> <p>2)専門職者を対象とする共同事業</p> <p>* COVID-19に伴う中止：妊産婦救急救命基礎研修(BLSOプロバイダーコース)の運営</p>
<p>6. その他看護・社会福祉連携活動</p> <p>なし</p>

★は新規事業

(3) 事業評価および次年度への課題

看護と社会福祉の連携強化として、社会福祉部会で毎月行われている事例検討会での連携に取り組み始め、2年目となる。徐々に看護の教員および大学院生の参加回数が増加してきている。特に、大学院生にとっては、社会福祉やソーシャルワークに関して深い学びの機会となっている。今年度はCOVID-19の感染拡大の影響により、ZoomでのWeb開催や開催中止となったが、数少ない機会ではあるものの事例検討会のテーマと話題提供者を看護学部内で広報し、看護学部教員、健康長寿センター看護職員、大学院生の参加を得ることができた。事例検討を通して社会福祉と看護の視点を織り交ぜ、対象者理解や関わりのプロセスを深く振り返るだけでなく、互いの専門領域の考え方や活動を知ることによって刺激になっており、今後も引き続き連携を図る予定である。

看護部会では、今年度も両施設の連携の下で、COVID-19の感染状況を考慮しながら、可能な範囲での活動を行った。対面での実施が不可能なことが多くあったが、開催時期の変更やZoomを活用するなど柔軟に対応し、全79事業計画のうち17件の中止、3件の未開催、3件の不参加にとどめることができた。また、新規事業が7件あり、創意工夫を凝らし実施することができた。

今年度はCOVID-19感染対策のため、さまざまな制限が課される中、中止または未開催となった事業は30%にとどまっており、両施設の連携、協力体制が強化できた結果であると考えている。今年度やむなく実施できなかった事業に関しては、継続して次年度の活動として計画されている。

るため、今年度開催できなかった要因や開催方法について検討し、開催実現への方法を立案、実施していく必要がある。また、年度末の活動評価では事業の開催方法についていくつかの課題や提案があり、これらを踏まえて、次年度もより効果的な活動が展開できるよう高知医療センターとのさらなる連携強化を図っていく。

2) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ

(1) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボの相互利用の概要

高知医療センター2階205に高知医療センタースキルズラボが開設されている。本学からは、医療センター看護局を通じて高知医療センターのイントラネットを使用して事前予約をおこなってから使用することになっており、主に学部生実習などの目的で使用している。高知医療センターの医師や看護師も事前予約の上、本学に設置している設備および備品（シミュレータなど）を使用できる。申込書類は総務企画課に提出されるため、設備および備品の管理責任者は総務企画課から連絡があった場合、設置室、設備および備品を確保する。

(2) 高知医療センタースキルズラボの利用実績

令和2年度（9月末現在）における高知医療センタースキルズラボ使用実績として使用人数は施設使用241件、使用人数679名であった。昨年度より減少が見られる。コロナ禍での交流制限の中、今後の利用促進が課題である。

(3) 高知県立大学スキルズラボの利用実績

本年度の高知医療センターによる本学施設の利用実績はなかった。コロナ禍での交流制限の中、今後の利用促進が課題である。

(4) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ運営委員会

本学からの委員として、池田教授と井上講師が参加している。本年度は令和2年10月26日（月）に第1回スキルズラボ運営委員会が開催された。令和2年度スキルズラボ備品等決算、令和2年度使用実績・報告、令和3年度スキルズラボ備品等予算について話し合われた。運営委員会での議論は、高知医療センターとの包括的連携協議会において報告された。

(5) 次年度の課題

本年度は昨年度に比べて、本学からのスキルズラボ使用実績が少なかった。コロナ禍において医療センター職員、学生（学部・大学院）や教員の相互乗り入れに制限が加わる状況下でやむを得ない部分もあるが、両機関の積極的な相互利用が望まれる。例えば機材や物品を相互提供しあって、人ではなく物の交流を図ることはできないだろうか。今後も、両機関のスキルズラボの相互乗り入れを促進していく必要がある。

(6) スキルズラボ備品

本年度のスキルズラボの備品は昨年度と同様である。